

## 第 2 4 回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

1	日時	平成31年3月26日(火) 午前10時～午前12時	
2	場所	蒲郡市役所 本館 303会議室	
3	出席者	委員 愛知工科大学機械システム工学科教授 委員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 委員 愛知運輸支局 委員 愛知県交通対策課  委員 総代連合会会長 委員 総代連合会副会長 委員 総代連合会副会長 委員 形原地区公共交通協議会 委員 蒲郡市身体障害者福祉協会 委員 蒲郡市老人クラブ連合会 委員 蒲郡市社会福祉協議会 委員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 委員 蒲郡商工会議所 委員 蒲郡市観光協会 委員 名鉄バス株式会社 委員 豊鉄タクシー株式会社 委員 株式会社かね自動車  委員 名古屋鉄道株式会社 委員 公益社団法人愛知県バス協会 委員 愛知県タクシー協会 委員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 委員 愛知県蒲郡警察署  委員 東三河建設事務所 委員 蒲郡市長 委員 蒲郡市総務部長 委員 蒲郡市企画部長 委員 蒲郡市市民福祉部長 委員 蒲郡市建設部長 委員 蒲郡市産業環境部長 委員 蒲郡市都市開発部長	村上新 松本幸正 杉本忠久 榊原仁 (代理 山田浩之) 細井政雄 遠山憲章 尾崎英行 壁谷権一郎 金沢孝一 松本久乃 金原久雄 (欠席) 菰田寛子 (欠席) 小池高弘 (欠席) 杉山和弘 吉岡実 浅野丈夫 天野一美 (代理 寺沢忠宣) 河合貴夫 (欠席) 小林裕之 (欠席) 山田透 白井淳 竹内敬悟 (代理 塩原広久) 稲垣秀高 稲葉正吉 壁谷勇司 飯島伸幸 竹内仁人 鈴木伸尚 贅年宏 鈴木成人

事務局 蒲郡市交通防犯課長 池田高啓  
蒲郡市交通防犯課長補佐 松井英樹  
蒲郡市交通防犯課主事 石川雄策  
蒲郡市交通防犯課主事 井本博子  
地域公共交通網形成計画推進事業受託事業者 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 1名

4 傍聴人 1人

5 議題

(1) あいさつ

6 協議事項

(1) 東部地区支線バス事業（案）について・・・・・・・・・・【資料1】

(2) 平成31年度蒲郡市地域公共交通会議事業計画（案）及び予算（案）について  
・・・・・・・・・・【資料2、3】

7 報告事項

(1) 形原地区支線バス利用状況、停留所移設について・・・・・・・・・・【資料4-1、4-2】

(2) 蒲郡市内公共交通の利用状況等について・・・・・・・・・・【資料5】

(3) 西部地区支線バス事業（案）について・・・・・・・・・・【資料6】

(4) 名鉄バスダイヤ改正について・・・・・・・・・・【資料7】

8 その他

9 議事内容

(1) 開会

・ 出席委員が25名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており傍聴人がいること及び地域公共交通網計画推進事業受託事業者として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に参加していただいていることが事務局より報告された。

(2) 議題

ア あいさつ

蒲郡市長、稲葉正吉より、本日は東部地区支線バス事業案と平成31年度の交通会議事業計画案及び予算案について協議を、また、形原地区支線バスの利用状況などの4件の報告をさせていただく。形原地区あじさいくるりんバスは皆さんの協力により3月5日に5,000人の利用を達成した。交通空白地域の改善として、市内各地で説明会を実施し、東部地区、西部地区での検討が進んでいる。委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴し、蒲郡市の公共交通がよりよくなるよう、お願いを申し上げたいとのあいさつがあった。

(3) 協議事項

- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

ア 東部地区支線バス事業（案）について

- ・ 事務局より資料1に基づく説明が行われ、現時点の案が承認された。意見や提案をふまえて地域で協議を継続し、事業者選定後、次回公共交通会議にて最終承認を得る。

[質 疑]

(委 員)

- ・ 新しい系統をつくることになる。最近では運転手の勤務時間などが問われている。安全性も問われるため、交通事業者との調整をよろしく願いたい。
- ・ 蒲都市には地域間幹線系統の路線バスがない。補助金の活用について、交通不便地域であれば補助を受けられる可能性があるので、愛知運輸支局とご相談ください
- ・ 新たな事業者選定にあたり乗合の事業許可を要件とすると思うが、選定事業者が新たに乗合免許の許可が必要な場合は、許可申請について少し時間も必要なので注意を。

(委 員)

- ・ 9月に交通事業者と調整をしたとなっているが、具体的に何を調整したのか。

(事務局)

- ・ 交通事業者には、前回第23回の交通会議に出席いただいていた。松本委員から東部地区の事業化に対して、交通事業者への影響、問題がないかという指摘があり、交通事業者から特に問題はないという回答をいただいている。交通事業者の理解を得た事業である点を示している。

(委 員)

- ・ 地域で協議会を立ち上げ、地域主体で進められている。地域で創り守り育てるということを進められている。地域で利用されていくことを期待したい。

(委 員)

- ・ 右まわり、左まわりについて地域の要望があって設定していると理解する。右まわりと左まわりで少しルートが違うところがある。右まわりについて具体的にどのようにまわるのか。

(事務局)

- ・ みや児童館から三河三谷駅までは一方通行のため、道路事情からこのルートになった。

(委 員)

- ・ 地元の方は一方通行を理解しているので違和感はないだろう。右まわり、左まわりが定着するには時間がかかる。反対側の停留所に移動する可能性がある。中央分離帯などはなく移動ができるか。横断歩道があるか。

- ・ できるだけ間違わないようなバス停の案内ができるようにしてほしい。

(事務局)

- ・ 道路の両方に停留所があるのは5、6カ所だと思う。中央分離帯はない。
- ・ できるだけ施設に乗り入れるようにして、安全に乗降できるように配慮している。

(委員)

- ・ 施設に乗り入れるのはよいと思う。停留所で安全に待てるように施設管理者の協力を進めてください。また、例えばスーパーと連携して、バスで来た人にはポイント制を導入するなど、利用促進について地域での取り組みを考えていただきたい。

(委員)

- ・ ダイヤを見ると、一旦降りてしまうと少し時間を待つようなダイヤとなっている。スーパーなどは、事前に注文していたらその場ですぐに荷物を受け取り乗車できるという利用もあるとよい。

(事務局)

- ・ 支線バスは買い物、病院利用、お出かけ支援を主な目的として事業構築している。買い物についてそのような形は想定していなかった。今回の場合は、お店の中での待合をお願いし、買い物をした次の便で帰るような利用を想定している。

(委員)

- ・ 図書館が将来の西部地区との接続拠点となる説明があった。図書館の休館日と重ならないか。火木土の運行曜日設定について考え方を教えてほしい。

(事務局)

- ・ 図書館の休館日は月曜日。
- ・ 火木土の曜日設定は、日曜日は病院が休み、月曜日は公民館が休みで、形原地区と同じ運行曜日となった。

(委員)

- ・ よいバスとなっていると思う。今後は、地区の方に知っていただけるかどうか。例えば、最初の1週間もしくは1日の無料キャンペーンの実施を想定してみたらどうか。利用するきっかけ、あと一歩の後押しをするような取り組みをお願いしたい。

(事務局)

- ・ 東部地区の協議会に報告する。協議会には老人クラブの方も参加してもらっている。老人クラブの会合などで回数券を配るといことも考えてもらっている。

(議長)

- ・ この議題については、いただいたご意見や提案をふまえて地域で協議を継続していただき、次回6月の協議会で承認いただくよう進めたいと思う。

イ 平成31年度蒲郡市地域公共交通会議事業計画（案）及び予算（案）について

- ・ 事務局より資料2、3に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質疑〕

(委員)

- ・ 平成31年度の予算案の収入の120万円について、広告収入の現状と今後の見通しを教えてください。

(事務局)

- ・ 120万円の収入は、経費600万円の収支率の目標水準2割に相当する。
- ・ 運賃収入は11カ月分で43万8,850円。広告収入は14万6,400円。バス停広告

は現在5事業者6箇所です。3万2,000円。来年度はバス停広告が増えて9事業者11箇所13万2,000円程度になる想定。

(委員)

- ・ バス停広告は増えている。事務局等の呼びかけで増え、ありがたい。
- ・ 前回の交通会議の際に、市長に、運行する曜日の追加について要望書を提出したことを報告させていただいた。地元としてはもう1日増やしてほしいと思っている。
- ・ かんだ整形外科からも金曜日を増やしてほしいとの声がある。蒲郡市内の他の整形外科がやめ、かんだ整形外科の利用が増える見通しである。補正予算等の対応で、運行曜日を増やしてほしい。よろしくお願ひしたい。

(市長)

- ・ はい。

(議長)

- ・ ご検討いただけるようよろしくお願ひ致します

#### (4) 報告事項

ア 形原地区支線バス利用状況、停留所移設について

- ・ 事務局より資料4-1、4-2に基づいて報告が行われた。

[質疑]

(委員)

- ・ 年間5,000人の利用について3月5日に達成した。4,999人目、5,000人目、5,001人目の3人の女性に感謝状を贈呈した。
- ・ くるりんバスの運行で助かっているとの感想を述べていただいた。買い物全般や町内の病院、路線バスに乗り換えての市民病院への通院利用をしている。バスはなくてはならない生活の足である。かんだ整形外科へ通院利用している。生活に欠かせない交通手段という感想。ユトリーナの利用でよく使うという意見をいただいている。
- ・ 空白地域解消として、東部地区、西部地区の導入がされることは期待したい。
- ・ 順調に利用者が増えてきており、今後さらに5,500人を超えるようにしたい。来期はGWの10連休がどうなるか気にしているところ。

(委員)

- ・ 曜日を増やしたり車両を大きくしたりすることで利用者が増えるのか。収支率2割の議論がある。
- ・ 周辺市町の状況を勉強した。幸田町は無料バスで20人乗りの車両を活用している。
- ・ やるからには利用者を増やすことを進めたい。

(委員)

- ・ 形原地区の一番利用の多い停留所はAコープとユトリーナ。Aコープとユトリーナは水曜休みであり、発着地の公民館は月曜休みなので、火木土に運行した
- ・ 金曜日の運行の要望はかんだ整形外科の利用者のためが大きいの。増えるかどうかよりも利便性を重視。
- ・ 過疎地対策として運行開始したもので、マイクロバスでは、通れない道路がある。

当初は、マイクロバスの導入も考えたが、通れない道路があることから10人乗りの車でスタートした。乗りこぼれにも対応してもらっている。

- ・ 小型車両ではあるが、利用者から不便との声はない。
- ・ 地域としては、運行曜日を増やすことで、安心して利用できる日を増やしたい。今の火木土の運行からもう一日増やすことを希望している。複数人バスに乗っていることで安心感があり、またバスの中がコミュニティの場にもなっている。

(委員)

- ・ 他の地域のコミュニティバスに乗って、いろんな意見を聞いて、東部地区の検討をしてきた。
- ・ 形原地区は600万円かけて運行しているが、車両が休んでいる曜日がある。人件費は、タクシーなど他の事業ができるからよいが、車もったいないと感じる。我々としては、もったいないから運行する曜日を増やしたい。
- ・ どのように乗車人員を増やすか。無料キャンペーンを行うことも検討したい。この予算も必要なので、町内会費でまかなうことも検討している。
- ・ 走るだけではなく目標を持ちたい。免許証返納して、バスにのってもらおう。エコバスも考えたい。蒲郡市観光協会で、てんぷら油の回収をしている。豊橋の事業者で精製しているが、リユースが進んでいない。ディーゼル車で使われているが、エコバスとして利用することを考えたい。

(議長)

- ・ 乗車率がとても高く感じるが、乗りこぼしは発生していないか。

(事務局)

- ・ 形原地区のあじさいくるりんバスは、今年5,000人を超えた。利用は増えている。
- ・ 運行曜日の追加について予算要求したが、予算化できなかった。引き続き予算化を考えたい。週3日で運行している点については、事業費の総額を考慮して週3日でスタートした。
- ・ 利用実績をみると、あじさい祭りのある6月の平均利用者数が7.4人となっており、きわめて多い人数だと理解している。
- ・ 近隣市町のコミュニティバスをみると、乗っていない風景を見るが、形原地区は乗っていない車両はほとんど見ない。これは本当に地域のがんばりの結果だと思う。
- ・ 形原を参考に東部地区で事業構築をしている。東部地区は形原地区ほど人口が多くないが、交通空白地域である。駅接続もあることから、利用は見込める想定。車両はハイエースで、きめ細やかなルートで走らせて、利用を進めるよう考えている。

(委員)

- ・ 6月の対応について補足したい。6月のあじさい祭りの時は、渋滞対応から予備車を追加投入して運行している。形原温泉停留所に予備車を待機させて追加運行しているため、利用者があふれる形にはなっていない。定時運行と乗りこぼし対策を行っていることを説明しておきたい。

(委員)

- ・ 形原地区の運行を行っている。その他周辺の5つの自治体で事業を行っている。

それぞれ運行の仕方が違い、新城市は、特殊な対応を行っている。定員以上になったら載せていない。

- ・ 豊川市は、8つの路線の内2路線で乗りこぼしが多く、平成33年から車両を変える。14人乗りの車両にする。車両サイズは同じで、仕様変更で座席を増やす。
- ・ 車を大きくしたら利用が増えるということではなく、いろんな施策をすることで利用が増え、それに対応することが必要と感じる。
- ・ 運転手にとっては車のサイズが変わると内輪差が出てくるので、安全を考えると同じ車両で運行することが望ましい。
- ・ エコバスの話について、名鉄バスが廃油をつかって運行していると聞いた。津島市で運行をしていると聞き、状況を確認した。燃料を噴射するバルブが昔はアナログだったが、今はデジタル化している。新型の車両は廃油では動かない。名鉄バスは廃油を5%や10%に混合して対応している。こうした細かな点については、調査報告したい。

(委員)

- ・ エコバスの取り組みについて、豊鉄タクシー、会社としての環境に対する取り組み方針を聞きたい。

(委員)

- ・ 環境対策ならCO2を出さないなどいろんな方法があり総合的に考えたい。ハイブリッド車、電気自動車の活用などもある。ジャパントクシーという電気で動く車もある。こうした車両を含め環境対策は総合的に考えたい。

イ 蒲郡市内公共交通の利用状況等について

- ・ 事務局より資料5に基づいて報告が行われた。

[質疑]

なし

ウ 西部地区支線バス事業（案）について

- ・ 事務局より資料6に基づいて報告が行われた。

[質疑]

(委員)

- ・ 西部地区の検討が進められている。東部地区との乗り継ぎの検討がされている点はよいと思う。図書館での乗り継ぎ、料金100円の扱いについて注意したい。乗り継がれる時に、一旦車から降りられて、次のバスに乗るということなので、100円が追加されるのが基本だろう。
- ・ 100円で乗り継ぎできるという錯覚がおきないように説明をしておこう。

(委員)

- ・ 他の事例では100円でどこでも行ける場所もある。1回100円か、1日乗車券や年間パスポートなどの導入もあるだろう。
- ・ 東部地区からは西部地区で乗り換えて市役所まで行く利用が多いだろう。乗車券の

種類について、考えていかなければならないと思う。

(事務局)

- ・ 東部地区や西部地区の会議で、ご指摘のあった乗り継ぎ券、定期券についての意見を聞いている。形原地区は回数券を導入した。
- ・ 東部地区は10月から、西部地区は1月から運行し、図書館での乗り継ぎができるようになる。乗り継ぎ券、1カ月定期券などについては、1月までには回答を出せるように検討をしなければいけないと理解している。

(委員)

- ・ 地域にあったシステムにしていただきたい。地域の施設の休館日にあわせて運行曜日を設定してほしい。地域の実情にあった計画で、小さく生んで大きく育ててほしい。
- ・ 安全面や乗務員不足という問題もある。そうしたことを含めて、検討を進めていただきたい。
- ・ エコ、環境対策については、交通事業者でも考えるが、コミュニティバスは市が運行するものであるため、市と協議を進めていただくべきことだと思う。
- ・ 地域にあった最適なものを作り上げていただきたい。

(議長)

- ・ 西部地区の素案について、ご指摘をふまえて、検討を進めてください。次回6月の会議で承認できるように進めていただきたい。

(委員)

- ・ バローという名称の停留所があり商業施設は行けるが、地域の病院はいけるのか。
- ・ 8の字の回り方について、地域の方の選択か。
- ・ 図書館を起終点とすることは考えていないか。東部地区のルートが長いので時間調整が難しいかもしれないが、うまくダイヤのすり合わせをお願いしたい。

(事務局)

- ・ 西部地区内の病院は、地域内にはほぼなく、まち部の地蔵ヶ崎停留所の周辺にある。
- ・ 8の字ルートは地域の方が乗車後図書館で乗り換えて市民病院にいけるように右回りにした。
- ・ 図書館で時間を合わせる点は、ダイヤ設定時に留意したい。

(委員)

- ・ もう少しシンプルにした方がよいかもしれない。45分走ることを考えるともっとシンプルなルートの方がよいだろう。
- ・ 起終点での乗り継ぎは、2周目になるときは運賃が発生しないことを考えるべき。

(事務局)

- ・ 形原地区、東部地区は右まわり、左まわりルートで検討した。西部地区も両まわりルートにするか検討したが、毎便同じ時間に停留所を通過するルートを設定したほうが分かりやすいという意見だった。実際にルートを走行して40分程度で、乗降時間を含めて45分であれば、我慢できるのではないかと、地域では考えている。
- ・ 2便目に乗り継ぐ時の料金については、地域で議論したい。

エ 名鉄バスダイヤ改正について

- ・ 事務局および事業者より資料7に基づいて報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

(5) その他

ア その他

(委 員)

- ・ 名鉄バスについて、大型の車両でもがらがらの状態がある。通学の時間帯は多く、昼間いないということか。

(委 員)

- ・ 通勤通学時間帯は、それなりに利用が多い。昼間帯は利用が大きく減少する。利用状況をみて合理化せざるを得ない。
- ・ 利用者の利便性を損なわないようにしたい。昼間帯だけバスを小さくすることもできない。我々も昼間帯の利用を増やすことを考えているが、どうすれば高齢者の外出支援となるか常に考えていく。課題として認識している。

(事務局)

- ・ にしがまシーサイドウォークのちらし説明。名鉄の利用をお願いしたい。
- ・ 次回の地域公共交通会議は6月予定との連絡を行い会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

蒲郡市地域公共交通会議委員

印

---

蒲郡市地域公共交通会議委員

印

---